

仙台防災未来フォーラム 2026 にて地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門のブース展示を実施しました（2026/3/14）

テーマ：津波リスク評価, Eco-DRR, 防災教育, 防災国際標準化

会場：仙台国際センター（展示棟）

URL：https://irides.tohoku.ac.jp/event/event_jn/detail---id-6334.html

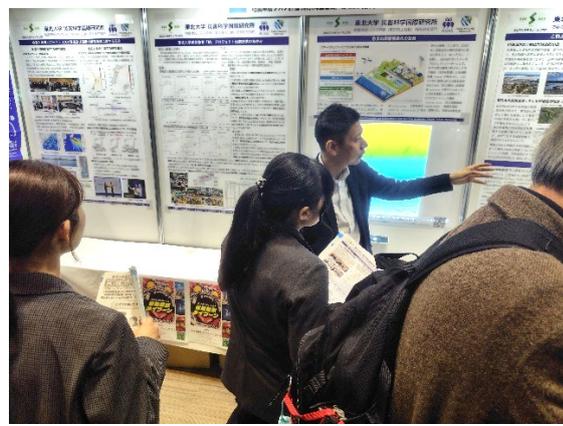
2026年3月14日（土）に仙台国際センターで開催された仙台防災未来フォーラム2026において、災害科学国際研究所の地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門がブース展示を行いました。

「仙台防災未来フォーラム」は、震災の経験や教訓を未来の防災につなぐため、市民が防災を学び、日頃の活動を発信するイベントとして仙台市の主催により開催されてきたものです。12回目となる今回は、「東日本大震災から15年 つなぐ想い、つむぐ未来」をテーマに地域団体や企業、大学など、これまでで最多となる延べ176団体が参加し、市民の方に防災・環境をより身近に感じていただくためのさまざまなプログラムが実施されました。

今回、当寄附研究部門では、「復興と未来の防災を目指す産学連携の取り組み」をテーマに、①津波ハザード・リスク評価やその国際的な被害軽減に関する研究、②東北大学減災教育「結」プロジェクト出前授業のあゆみ、③防災の国際標準化の取組、④生態系を活用した防災・減災の推進にむけて、当寄附研究部門で実施している活動についての幅広い内容のポスター展示を行いました。また、能登半島地震の津波を解析した動画や、飛島での防災の紹介動画、当研究所が監修した東京海上日動の防災啓発動画をブース内で上映したほか、減災ハンカチ、減災風呂敷の活用について説明を行い来場者の方々の理解促進に努めました。当日は、サッパシー・アナワット准教授、保田真理プロジェクト講師、千釜章学術研究員、鎌田健一特任教授、岩瀬恵一特任教授（いずれも地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）により説明が行われ、多数の来場者を迎えて盛況のうちに出展を終えました。



ポスター・動画展示の様子



来場者に説明するサッパシー准教授